

A 河口慧海銅像

南海本線七道駅前。昭和58年(1983)堺ライオンズクラスの創立25周年記念事業として彫刻家田村務氏が制作。
〈鉄砲町〉

B 菅原神社御旅所 [立ち入り不可]

堺北荘の氏神菅原神社の御旅所。境内の石燈籠には、慧海の実家「樽善」の名がみられる。「西藏旅行絵巻」第一巻はここでの出来事から始まる。
〈北旅籠町西3丁〉

C 海船政所跡

室町時代、堺幕府を開いた三好元長が完成させたとされる堺での拠点のひとつ。慧海口述の自伝によると、慧海が9-10歳頃、河口家は「字海船」に居住していたとされる。
〈桜之町西3丁〉

D 河口慧海生家跡

現在の北旅籠町西3丁に樽職人の善吉の長男定治郎として生まれる。
〈北旅籠町西3丁〉

E 清学院

登録有形文化財 山伏寺であった清学院では、寺子屋清光堂が開かれ、慧海は6歳でここに通った。町家歴史館としては令和6年3月のリニューアルオープン時には慧海の常設展示が開設される(同年7月~令和6年3月上旬は工事のため休館)。
〈北旅籠町西1丁〉

F 来迎寺 [内部非公開]

融通念仏宗の寺院。明治5年(1872)学制の発布とともに慧海は来迎寺に仮設された第七区分校に入学。
〈綾之町西2丁〉

H 正木直彦生家跡

旧堺燈台 [内部非公開] 国・史跡
明治10年(1877)に建設されたもの。慧海も見物に出かけたか。

G 堺紡績所跡

明治3年(1870)に日本で2番目の紡績工場として建設される。晩晴書院からは夜明け前と夜10時に鳴る紡績所の汽笛がよく聞こえたという。
〈戎島町〉

H 正木直彦生家跡

晩晴書院の同門正木直彦は慧海の4歳年上。東京美術学校の校長を長く務め、慧海が将来した品を同校で展示したり、慧海の活動を支援した。
〈大浜北町4丁〉

井上関右衛門家住宅
市指定有形文化財
日本で唯一のこる江戸時代前期の鉄砲鍛冶の住居兼作業場。令和6年3月に(仮称)鉄砲鍛冶屋敷ミュージアムとしてオープン予定。
〈北旅籠町西1丁〉

I 河井醉茗生家跡

北旅籠町で呉服商を営む家に生まれた詩人河井醉茗は、慧海より8歳年下で慧海とは晩年まで親交があった。
〈北旅籠町東1丁〉

J 肥下徳十郎宅跡

慧海が「無二の親友」とする肥下徳十郎の家。肥下家は両替商、紙屋、印刷業など手広く事業を行っており、北旅籠町大道に大きな屋敷を構えていた。
〈北旅籠町東1丁〉

山口家住宅

重要文化財
大坂夏の陣で堺が焼失した直後に建てられた堺を代表する町家。平成21年から町家歴史館として公開。令和5年7月から工事のため休館し、令和6年3月にリニューアルオープン予定。
〈錦之町東1丁〉

K 万福寺 [内部非公開]

浄土真宗本願寺派。晩晴書院の同門で、慧海たちより2つ年下だった植物学者河野学一の実家。堂内には慧海の母ツネの供養札がある。
〈九間町東3丁〉

L1 梅翁寺跡

L2 錦西小学校 [立ち入り不可]

慧海の入学した第七区分校は来迎寺からすぐ梅翁寺境内の仮分校に移転。これが泉州第二番小学校・錦西小学校の前身。現在の錦西小学校の場所には1950年代に移転。
〈(L-1 梅翁寺跡) 錦之町西2丁〉、
〈(L-2 錦西小学校) 神明町西2丁〉

M 晩晴書院跡

土屋弘(号:鳳洲)が主宰する漢学塾。正木直彦を筆頭に、慧海、肥下徳十郎、河野学一ら、堺が生んだ明治の青年たちが勉学に励んだ。
〈戎之町西1丁〉

さかい利晶の杜

堺の環濠エリアの観光拠点。千利休と与謝野晶子の展示があり、それぞれの人物を通して、おもに中世から近代の堺について知ることができる。
〈宿院町西2丁〉



-石碑、案内板等あり
-外観のみ見学可
-案内板等ありません